

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

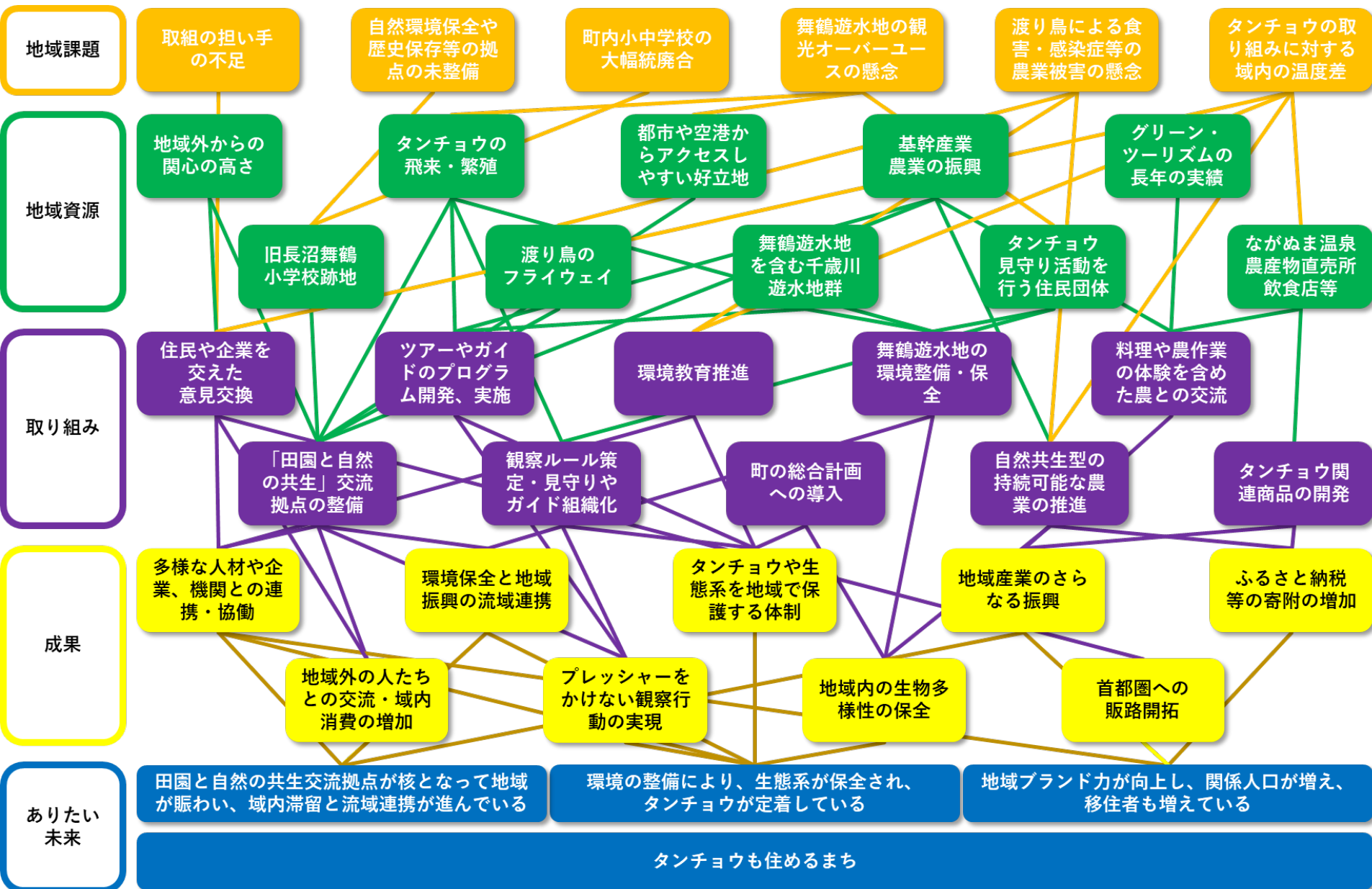
活動団体名：長沼町

活動地域：北海道夕張郡長沼町

活動におけるテーマ・キャッチコピー
タンチョウも住めるまちづくり



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

廃校跡地を活用した活動の拠点整備

- ✓ 住民会議の開催(4回)
- ✓ 廃校活用事例の視察(7月)
- ✓ 連携候補の事業者へのPR(9~11月)
- ✓ 住民・企業を交えた意見交換会(11月)



タンチョウ関連商品の開発・販売促進

- ✓ 開発助成制度の実施(7事業者)
- ✓ 札幌市商業施設でPR・物販コーナーを出展
- ✓ 役場1階ロビーに展示ケースを設置
- ✓ 商品紹介パンフレットを制作



タンチョウと共生する農業とブランディング

- ✓ 農協・農業者を交えた意見交換会(2月)
- ✓ 農業者へのアンケート(3月、予定)

タンチョウ保護と両立した観光商品の開発

- ✓ 現地見学会の開催(8月)
- ✓ フットパスツアーの受け入れ(8月)
- ✓ 旅行事業者との連携
 - モニターツアーの企画(延期)
 - 住民ガイドの育成の検討(次年度、予定)



普及啓発・住民参加

- ✓ 広報ながめまへの記事連載
- ✓ 各種出前授業・環境教育イベント
- ✓ イラスト集の制作
- ✓ 円山動物園でのパネル展出展
- ✓ 国土交通省主催「生態系ネットワーク全国フォーラム」(2月)やEPO北海道主催「地域循環共生圏づくりオンラインフォーラム」(1月)での講演
- ✓ サポーター制度の検討(4月開始)



総合振興計画

- ✓ 第6期長沼町総合振興計画に『タンチョウも住めるまちづくり』推進を掲載

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	「田園と自然の共生拠点」づくりと長沼タンチョウ・ガイド（仮称）事業		
	概要	舞鶴遊水地を訪れる個人・団体の観光客に対して、地域住民で構成されるグループが有償ガイドを実施する。また、観光をはじめとしたタンチョウも住めるまちづくりの拠点として、長沼舞鶴小学校（令和2年3月閉校）跡地を活用した「田園と自然の共生拠点」を整備する。これによってタンチョウや渡り鳥をはじめとした長沼町の自然を観光の対象として扱うためのスキームがつけられ、観光オーバーユースを回避することにもつながる。		
	課題・ボトルネック	旧長沼舞鶴小学校の整備費用、事業活動の担い手、住民ガイドの担い手、事務局の担い手	力を借りたい人物・企業像	旧長沼舞鶴小学校で事業活動をする事業者、地域住民によるガイドグループ

2	事業名	タンチョウ関連商品の開発・販売事業		
	概要	長沼町のタンチョウをモチーフとした商品を町内の事業者が開発し、販売する。タンチョウ観光を目的とした来訪者をメインとして、バードウォッチャー・観光客・サイクルツーリスト等がそれらを購入することで町の経済に貢献するとともに、さらにタンチョウとの共生に関する情報の発信者となっていく。		
	課題・ボトルネック	事業者個別の取り組みではなく、地域全体としてブランディング、盛り上げりを創出する必要性	力を借りたい人物・企業像	ブランディングの能力があるコンサルタント

3	事業名	タンチョウと共生して生産された農産物の販売事業		
	概要	生物多様性の保全等に配慮した農業を推進し、生産された農産物をタンチョウとの共生を付加価値として販売する。これによって長沼町面積の8割を占める農地において生物多様性が保全され、アンブレラ種であるタンチョウの安定した生息環境が再生・維持される。また、これに取り組む農家の農産物の価値が高まり、高単価で消費されることによって農家の所得に貢献する。		
	課題・ボトルネック	生産された農産物の販売先、農家の意欲向上	力を借りたい人物・企業像	農家、農協、農産物取扱い事業者

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 事業者は、自身の業態と関連付けられる内容で地域に貢献・参画することに意欲がある。しかし、事業者が参画する際には、地域・自治体との連携・意思疎通が重要である。

地域のコンセプトを描く！

- 新聞報道やドキュメンタリ番組放送、地域外の企業からのアプローチなど、外部の関心の高さも地域の資源の一つとして捉えられる。

事業のストーリーを語る！

- 各事業の実施主体・担い手の確保が課題。既存の地域内のプレイヤーとの連携、新たなステークホルダーの輪を広げる必要がある。
- 意見交換を通じて、農協とも連携の芽が見えてきた。

地域の目標を立てる！

- 商品開発・販売促進の取組では昨年度より販売数増加という嬉しい声も。
- 経済波及効果として売上目標を設けることは現段階では難しい。まずは商品・サービス数を設定。
- ビジョンはあっても、資金調達の手法等が見えない中で具体化を進めることは難しい。

担い手の確保



- 環境学習イベント、観光ガイド、タンチョウと共生する農業などの各種の取組を行っていく担い手
- 廃校跡地の活用を主体的に行う事業者・NPO等

今後の展望

経済活性化につなげる

ステークホルダー(候補を含む)
の企業・住民等との意見交換



1. 共生拠点の整備



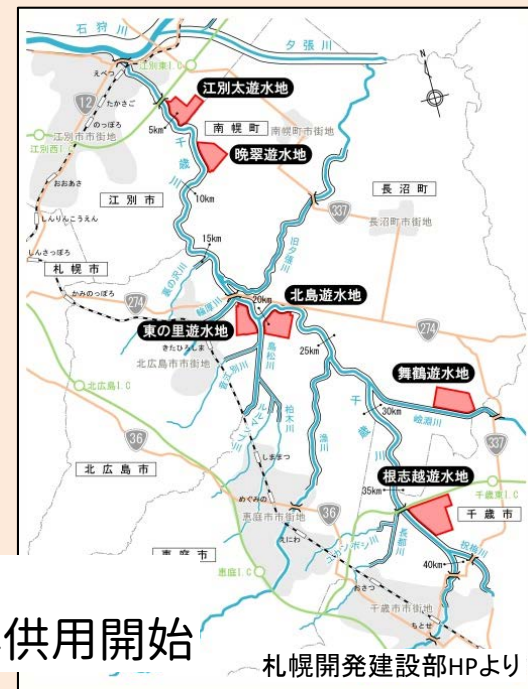
2. 担い手の育成

3. 農業や観光などの振興



取り組みの広域化

北海道開発局との連携
流域市町との意見交換



令和2年4月
千歳川遊水地群供用開始

札幌開発建設部HPより